

事例番号:320056

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第六部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 40 週 5 日

15:30 分娩誘発のため入院

4) 分娩経過

妊娠 40 週 5 日

16:26 プロピントル挿入

妊娠 40 週 6 日

7:20 人工破膜

7:40 キシシ注射液による陣痛誘発開始

妊娠 41 週 0 日

4:00 陣痛開始

6:15 頃 胎児心拍数陣痛図で変動一過性徐脈出現

6:19 頃- 胎児心拍数陣痛図で徐脈を認める

6:53 胎児機能不全の診断で帝王切開により児娩出

胎児付属物所見 臍帯は胎盤の辺縁付着、過長臍帯、胎盤病理組織学検査で
絨毛膜羊膜炎および臍帯炎の所見

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:41 週 0 日

- (2) 出生時体重:3690g
- (3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.130、PCO₂ 78.0mmHg、PO₂ 39mmHg、
HCO₃⁻ 25.2mmol/L、BE -5.9mmol/L
- (4) Apgarスコア:生後1分1点、生後5分4点
- (5) 新生児蘇生:人工呼吸(マスク・チューブ)、気管挿管
- (6) 診断等:
出生当日 重症新生児仮死、低酸素性虚血性脳症
- (7) 頭部画像所見:
生後13日 頭部MRIで大脳基底核・視床に信号異常があり、低酸素性虚血性脳症の所見

6) 診療体制等に関する情報

- (1) 施設区分:病院
- (2) 関わった医療スタッフの数
医師:産科医4名、小児科医1名、内科医1名
看護スタッフ:助産師4名、看護師4名

2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、分娩経過中に生じた胎児低酸素・酸血症による低酸素性虚血性脳症であると考えられる。
- (2) 胎児低酸素・酸血症の原因を解明することは困難であるが、臍帯血流障害の可能性を否定できない。
- (3) 子宮内感染が脳性麻痺発症の増悪因子となった可能性がある。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

- (1) 妊娠39週までの妊娠管理は一般的である。
- (2) 妊娠40週5日に入院し、メロキシカムによる子宮頸管拡張および妊娠40週6日から子宮収縮薬による陣痛誘発を予定したことは、選択肢のひとつである。

2) 分娩経過

- (1) 妊娠 40 週 5 日入院時の対応(分娩監視装置装着)は一般的である。
- (2) 分娩誘発・陣痛促進について、書面にて妊産婦の同意を取得したことは、一般的である。
- (3) プロピントルの使用方法およびオキシシリン注射液の投与方法(開始時投与量、増量方法)は基準内である。ただし、オキシシリン注射液の投与中に胎児心拍モニタリングを約 1 時間中断したことは、基準から逸脱している。
- (4) 妊娠 40 週 6 日 6 時 2 分頃からの遷延一過性徐脈に対し、酸素投与および医師に報告を行ったことは一般的である。その後に人工破膜およびオキシシリン注射液による陣痛誘発を行ったことは選択肢のひとつである。
- (5) 妊娠 41 週 0 日 3 時 55 分頃以降の胎児心拍数陣痛図所見に対して、医師に報告等を行わずに経過観察としたことは選択されることが少ない対応である。
- (6) 妊娠 41 週 0 日 6 時 19 分頃に胎児徐脈が認められた際の対応(酸素投与、医師に報告)は一般的である。
- (7) 6 時 25 分の医師到着後、胎児機能不全の適応で緊急帝王切開を決定したこと、決定から約 25 分後に児を娩出したことは適確である。
- (8) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (9) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

3) 新生児経過

- (1) 新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管、チューブ・バッグによる人工呼吸)は一般的である。
- (2) 高次医療機関 NICU に搬送したことは一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

- (1) 子宮収縮薬(オキシシリン注射液)の投与中は、「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2017」に則して分娩監視装置による連続的モニタリングを行うことが望まれる。
- (2) 胎児心拍数陣痛図で異常所見を認めた場合には医師に報告して適切な対応を行うことが望まれる。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

なし。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。